

提言イメージ（ドラフト）

I. はじめに

- 本プロジェクトの位置づけ（政策パッケージ（平成 26 年 10 月 10 日本部決定））
- 国民から募集した提案を参考としつつ、有識者からなる暮らしの質向上検討会で議論。

II. 総論～すべての女性が輝く社会づくりと暮らしの質の向上

（はじめに～提言のポイント～）

- 空間づくりについて
- ネットワークについて
- 活動しやすくする工夫について
 - ・産前産後、子育て期を中心に活動に制約のある女性、積極的に社会貢献したい女性（子育てが一段落した女性等）等が活動しやすくなる、「民間の創意工夫」をシチュエーションごとに整理。
 - ・当該創意工夫を広める施策を進め、問題意識、課題解決力をもつ民間の取組を厚くすることにより、女性が活動しやすい社会に持続的に変わっていくようにする。

【案 1】

（ありたい未来社会）

- ありたい未来社会の姿をバックキャスティングの手法で議論。以下のようなキーワードが浮かび上がった。
 - ・個々人の尊厳が尊重し合える社会
 - ・誰もが生き生きと活動できる社会
 - ・子どもを生みやすい・育てやすい社会、子育てが楽しい社会
 - ・家族、地域、職場などにおいて支え合う社会
 - ・弱者を大切にする社会、社会的包摂の推進、やり直しのきく社会

- ・ 必要な人が生活をより良くする情報を受発信できる社会
- ・ 文化と生き方の継承、家業とマイクロビジネス

○こうしたキーワードに通底するものとして、真の心のつながりのある社会（心の豊かさ）というキーワードも浮かび上がった。関連して、主体的に関わることによって喜びが得られるということも議論された。（随所において主となれば、立処皆真なり）

○また、ありたい未来社会を実現していくに当たっては、外国の制度・慣習をそのまま持ってくるのではなく、日本人の良いところ、価値観を生かしていくことも大切。日本人の長所が浮き彫りになってくることで、社会が元気になるとともに、世界に対するソフトパワー（文化力）の発信にもつながると期待できる。

⇒これらが第一分科会、第二分科会でも通じるか？（「心の豊かさ」は通用するが。）

Ⅲ. 3（1）へ移動？

○女性には、

- ・ コミュニケーション力
- ・ 情報発信力
- ・ インサイト力、共感力
- ・ 多様性を認める、包摂する力
- ・ 清潔好き
- ・ 生活力、生活実感を大切にする

といった傾向が濃く見受けられる。

ただし、上記はあくまでも傾向であって、当然、個人によって差があり、また男性がこうした特徴を有していないということでもない。また、女性かくあるべきということでもない。

○上述のキーワードで浮かび上がる社会を実現するには、こうした女性の力が必要。女性の力が（家庭を含む）社会で生かされることにより、日本の社会が変わっていくことが期待できる。

○例えば、子育ての一段落した女性（ポスト子育てママ）の経験・能力が生かされれば、我が国の社会は、もっと心豊かな社会へと持続的に変わっていくと考えられる。

（「すべての女性が輝く社会」について）

○暮らしの質の向上プロジェクトにおいては、「すべての女性が輝く社会」について、以下のようにとらえている。

- ・すべての女性＝就業の有無にかかわらず（注：専業主婦を選択した者も含む）、年齢にかかわらず、すべての女性
- ・輝く＝心が輝いている（随所において・・・）

○東日本大震災という未曾有の経験をした我々日本人にとって、すべての女性が輝くには特別のハレの日だけでなく、日々の暮らしが心穏やかに過ごせることが大事であり、そのためには、一歩でも二歩でも上述のような「ありたい未来社会」に近づいていくことが大事。

○こうした暮らしの質の向上の範囲は広く、身の回りを

- ・ハードの要素（空間的な要素）、ソフトの要素（情報や支え合いの要素）に分類し、第一分科会、第二分科会で議論するとともに、
- ・両要素を通じて民間の創意工夫を喚起するという観点から、第三分科会で議論を行った。

【案2】

（上記の赤字より下のパーツ）

【各分科会ごと（以下は、第3分科会のイメージ）】

Ⅲ. 各テーマごとの検討

1. 空間づくり（トイレ、移動機関等）

2. ネットワーク（情報提供、支え合い）

3. 活動しやすくする工夫

（1）総論

（はじめに：提言のポイント）

○活動しやすくする工夫について

- ・産前産後、子育て期を中心に活動に制約のある女性、積極的に社会貢献したい女性（子育てが一段落した女性等）等が活動しやすくなる、「民間の創意工夫」をシチュエーションごとに整理。
- ・当該創意工夫を広める施策を進め、問題意識、課題解決力をもつ民間の取組を厚くすることにより、女性が活動しやすい社会に持続的に変わっていくようにする。

（女性の置かれたシチュエーションの分類～活動しやすくなる工夫を考えるに当たって～）

○国立社会保障・人口問題研究所の「第14回出生動向基本調査」において、第1子出産前に有職だった女性の約6割が出産前後で離職していることがうかがえる。

また、労働力調査でも、いわゆるM字カーブと言われる現象（労働力率が30歳代で低くなる現象）、M字の右肩の40歳代以降でも非正規雇用が多いという現象が起こっていることがうかがえる。

○現実問題として、出産・育児が、女性のライフイベントとして、その後の人生設計に大きな影響を与えていることがわかる。

○このため、女性の置かれたシチュエーションを子育てとの関係で、大別、

- ・「子育て前」（産前・産後）、
- ・「子育て中」、
- ・「子育て後」

の三つに分類した。

○ただし、これに加えて、親の介護その他困難な状況を抱える時期もありうるので、こうしたことも視野に含めながら、議論を進めた。

(マインドセット・自己肯定感)

○なお、上記分類は、現状を踏まえた分類であり、女性が固定的に家事・子育ての役割を担うことを是とするものではなく、むしろ妻に家事・子育て・介護の負担が過重になっているとの認識であり、今後、男性も家事・子育て・介護に参加することが求められていることも付言しておきたい。

○女性が過重な負担を負うことに陥りがちな理由として、仕事も家事・子育ても全てにおいて完璧でないといけないというマインドセットに自縛自縛になっていると想像され、「Ⅱ．総論」で述べた社会を目指すこととで、こうしたマインドセットを解き、自己肯定感を持つことも可能となると考えられる。

○また、「男は仕事、女は家庭」というマインドセットは、夫が家計を稼ぐ高度成長期の一時期には仕事と家庭の在り方として合理的な選択であったが、共働き家庭が主流である現代においては解く必要がある。

○今後、マインドセットを解いていくとともに、「生活力」（自分のことは自分でする力、足りない部分は他人の力を借りる力）を磨くことが求められる。「生活力」は、マインドセットを解き、社会を変えていく自信になるとともに、社会の底力になりうる。

○なお、上述の複雑に絡んで形成されたマインドセットを解いても、知恵、文化といった底流に流れる根底的な価値が伝承されていけば、日本がその長所を失うわけではなく、むしろ社会の実情に応じた姿に変わっていくことができる。（江戸時代も、共働きで男性も家事参加？）

(議論の方向性)

○女性が活動しやすくするためには、施策を総動員することは言うまでもないが、民間の創意工夫ある取組を厚くすることで、持続的に社会が変わっていくと考えられる。

（ポスママ活躍社会を目指して）

- 中でも、ポスママ（子育ての一段落した女性）の様々な経験・能力は、地域コミュニティなど社会にとって大切であり、今後、「Ⅱ．総論」で述べたような社会を形成する大きな原動力となりうる。

(2) シチュエーション別の望まれる実践と先行事例～WS を通じた提案

上記(1)の大まかな分類に従って、女性の置かれるシチュエーションごとに、望まれる実践提案を以下のとおり整理し、これらの実践提案ごとに、民間の取組で先駆的な事例を中心に検討を進めた。

子育て前：

産前産後をラクに

子育て中：

仕事と家庭の両立を支援

子育てをサポート（民間の工夫、祖父母の協力、ポスママの協力）

移動をラクに

介護・困難な状況：

介護のケア・サポート

仕事と介護の両立を支援

就労サポート

自立サポート

子育て後（ポスママ）活躍：

子育て・家庭での優れた能力を発揮してもらうための取組

アクティブに活動するためのサポート

起業（生み出す、育てる）

<シチュエーション：子育て前（妊娠・出産・産後）>

○人と人のつながりが希薄になる中、周囲に教えてくれる人がおらず、産前・産後に不安を抱えてしまうという状況が考えられる。

○このような状況に対応するため、産前・産後を楽にするような取組が考えられる。

○例えば、

・産前・産後の適切な情報・ケアが街角の商店で手に入る取組として、・・・

・産前・産後の母親が楽に自立できるケアの確立する取組として、・・・

- ・育児スタートラインを楽にする環境づくりとして、・・・
 - ・各種イベントを通じた情報発信として、お産バー、授乳ショー、授乳パレード・・・
 - ・出産・育児を障害にしない講座として、・・・
- といったことが考えられる。

○こうした取組により、妊娠・出産の不安を取り除き、こうしたライフイベントを楽しいと感じることができる社会になると考えられる。

＜シチュエーション：子育て中＞

実践提案 / 内容 / 期待される効果 / 事例

- ・
- ・
- ・
- ・

(3) 今後に向けた提言

(4) マップ等参考資料